

受け継ぐ(その2)

校長 三浦一富

うけつぐ が、先月の巻頭言のテーマでした。今月に入ってから、6年生から5年生及び下級生へ受け継ぐ、様々な場面が見られます。例えば、黒坂線の坂を上ってくる朝の登校時。5年生又は4年生が登校班の班長役を務め、6年生は最後尾から下級生を見守ってくれています。お昼の清掃活動でも、班長役が下学年に受け継がれています。

また、3月17日(木)には、本番のプログラムに沿って卒業式の予行練習を行いました。卒業生と在校生、それぞれの思いがシンクロし、緊張感のある中、温かい雰囲気での練習は進みました。「別れの言葉」の呼び掛け、合唱は、本当に聴き応えのあるものに仕上がってきています。子どもたち同士、最後の「受け継ぐ」場が卒業式です。一週間後の本番が楽しみになりました。

さて、「桜ヶ丘」、旧小木中学校の校舎に移転してから、早一年が経とうとしています。心配された通学路も、黒坂線歩道に市教育委員会からガードパイプを設置していただくとともに、地域の方々の継続的な見守り活動のお陰で、交通事故の発生は「0」です。心から感謝しています。



さらに、今年度は「新生」小木小学校を前面に出し、教育活動に取り組んできました。玄関に貼ってある「さくらひろば」の文字も、その象徴の一つです。前庭の名前を子どもから募集し、決めた名前です。また、これまでなかった取組の一つとして、上越市の国府小学校との交流学习を実施しました。この活動以降、高学年の子どもの発表力、表現力に一層の磨きがかかったように感じます。

外に対して、自分たちの活動を積極的に発信していくことは、互いに刺激になります。「新生」小木小学校として、外に向けた発信をこれからも続けていきたいと思えます。そして、新たな小木小学校の伝統として、受け継がれていくことを願っています。

今年度も様々なテーマを取り上げ、一年間、巻頭言を書かせていただきました。お読みくださった皆様に感謝申し上げます。これからもよろしく願いいたします。